

令和4年度（2022年度）「木育マイスター」育成研修 委託業務

業 務 実 施 報 告 書

も く じ

- 事業概要 -----2
- 事業スケジュール -----3
- プログラムの作成
  - プログラム作成 -----4
  - 研修日程の設定 -----4
  - 現地情報の収集 -----7
  - 受講生の募集と選定方法 -----7
- 木育マイスター育成研修の実施
  - 第1回目 -----7
  - 第2回目 -----10
- OJTの実施 -----13
- フォローアップ研修の実施 -----20
- まとめ -----23
- 添付資料
  - ①OJT 自己評価シート
  - ②アンケート集計



## ●事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、道内各地域で指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは6つに分かれており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画のやり方である。

胆振地区を会場とし、1泊2日の講座を前半（9月上旬）と後半（10月下旬）の2回行った。OJTは、9月上旬から10月下旬まで行った。

当カリキュラムを修了すると、「木育マイスター」として北海道から認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。令和4年度は第13期生として24名の木育マイスターが誕生することとなった。

また、令和元年度からの取り組みとして、北海道が認定した「木育マイスター」を対象に、今後の活動を後押しすることを目的としたフォローアップ研修を、日高地区にて開催した。

フォローアップ研修では、ゲストスピーカーをお招きした、講話とワークショップ、またフィールドワークや木育活動の事例発表など、新たな活動につながるための話題提供と個別相談・指導などを実施し、17名の参加者の今後の活動が円滑に進むようなアドバイスおよび問題点・改善点の指導を行った。

### ■本事業における業務

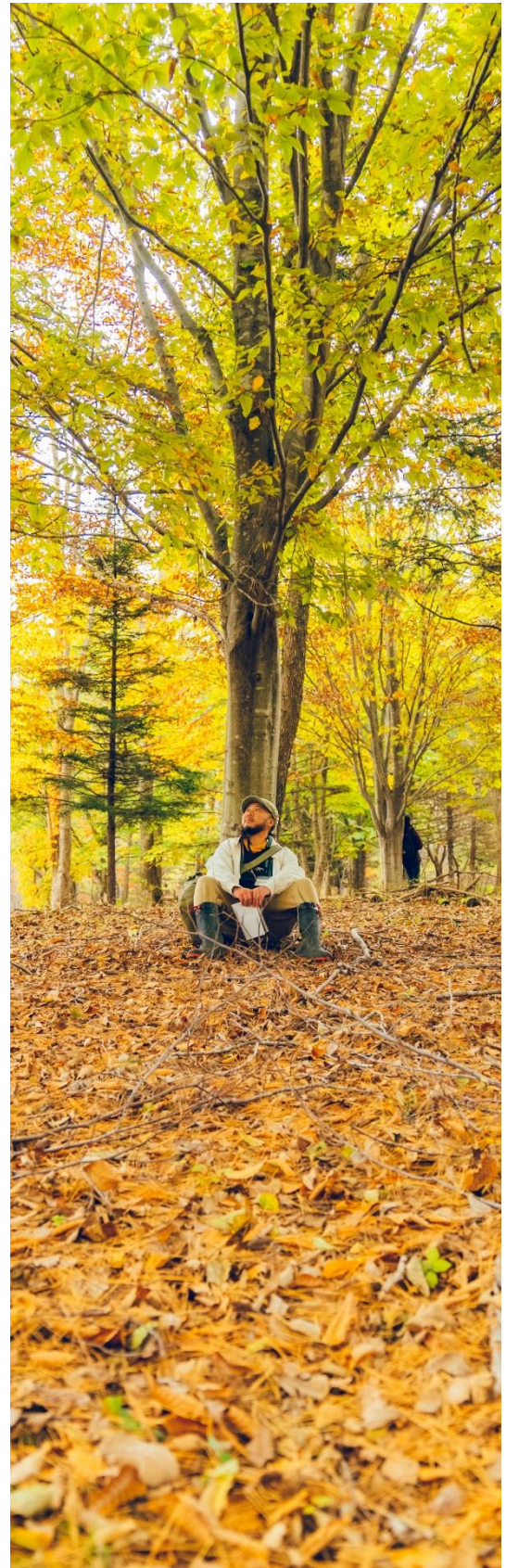
#### 1. 木育マイスター育成研修

##### 1) 受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体へ広報を行った。メディアリリースなどで広く一般からも参加者を募った。

##### 2) 研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習





においてテキスト内容を全て履修できるカリキュラム設定を行った。

第1回目と第2回目の2回に分けて研修会を行った。

### 3)OJT研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するためのOJTを実施した。



## 2. 木育マイスターフォローアップ研修

### 1)受講者の募集

木育マイスターメーリングリストから開催案内を送信するとともに、既認定者へチラシを郵送した。また、ホームページ、SNS等により周知を行った。

### 2)研修会の開催

今後の活動に役立つ実践的な内容に加え、事例発表を盛り込んだカリキュラム設定を行った。



## ●事業スケジュール

### ■事業スケジュール

講師陣の意見を聞き、前年までの講座の反省点を活かしてよりよい研修にするよう、カリキュラムの詳細を検討した。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。

7月上旬	講師陣と打合せ、研修日程、会場等決定、広報準備
7月15日	木育マイスター育成研修 受講生募集の広報開始
8月5日	木育マイスター育成研修 応募締切・選定
7月中旬～8月中旬	第1回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月4日-5日	木育マイスター育成研修 第1回講座
9月上旬～10月中旬	第2回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整

9月7日	OJT第1回目実施
9月下旬～10月下旬	木育マイスターフォローアップ研修 関係団体・講師と打合せ
10月22日	OJT最終回実施
10月23日-24日	木育マイスター育成研修 第2回講座
10月23日	木育マイスターフォローアップ研修 受講生募集開始
11月10日	木育マイスターフォローアップ研修 応募締切・選定
11月19日-20日	木育マイスターフォローアップ研修実施

## ●プログラムの作成

### ■プログラム作成

木育マイスター育成研修については、テキスト「木育達人入門」に基づき、プログラムはテキストの章立てに合わせ、第1章から第6章の内容を2日間×2回の全4日間で学ぶ研修の他に、OJTを一回以上受講することとした。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。過年度研修のアンケート結果などを踏まえ、よりわかりやすく実践的なカリキュラムになるよう、講師や内容の検討を行い、プログラムを作成した。

木育マイスターフォローアップ研修については、北海道と当法人で打ち合わせを重ねながら事業の枠組みを作成した。育成研修及びフォローアップ研修ともに新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みながら、関係各所との打ち合わせを綿密に行い、プログラムを作成した。

### ■研修日程の設定

野外でも活動しやすい、秋の季節に研修を行うこととし、日程を設定した。平日勤務の方も土日勤務の方も参加しやすいよう、日曜・月曜の研修とした。

◆第1回目 2022/9/3(日)～2022/9/4(月)

【9/3】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 11:30	5章	体験学習法の理解	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1.5H	イコロの森
11:30～ 12:30		昼食・休憩				

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
12:30～ 15:30	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育の理念	2.5H	イコロの森
15:30～ 17:45	4章	木と生きる ～人の成長と木の関係～	宮本 英樹	子どもの発達の特性と過程、人を癒す木の働き	2.0H	

【9/4】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 10:00	2章	木にふれ、 木に学ぶ	上田 融	林業体験—育林作業	1.0H	イコロの森
10:30～ 12:30	2章	木にふれ、 木に学ぶ	宮本 英樹	北海道の主な樹種 森林の定義 北海道の森林の特徴 木材の構造と性質	2.0H	北大研究林 (苫小牧)
12:30～ 13:40		昼食・休憩・移動				イコロの森
13:40～ 16:50	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	(株)ヨシダ 丹治産業	林業・木材産業の今	2.5H	各工場
17:00～ 18:00	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	上田 融	森林ボランティア、レクリ エーションの今	1.0H	イコロの森

◆第2回目 2022/10/23(日)～2022/10/24(月)

【10/23】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:30～ 12:00	5章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	2.0H	北大研究林 (苫小牧)
12:00～ 13:15		昼食・休憩・移動				イコロの森
13:15～ 14:15	5章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	1.0H	
14:30～ 15:30	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎	1.0H	
15:30～ 16:30	2章	木にふれ、 木に学ぶ	煙山 泰子 上田 融	林業体験—育林作業	1.0H	
16:45～ 17:45	2章	木にふれ、 木に学ぶ	煙山 泰子 上田 融	林業体験—林産加工	1.0H	

【10/24】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:00	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2.0H	イコロの森
11:15～ 12:15		木と生きる ～暮らしと産業～	宮本 英樹	林業林作業の今	1.0H	
12:15～ 13:15		昼食・休憩				
13:30～ 17:30	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	プログラム作りの 基礎、模擬演習	3.5H	

◆フォローアップ研修 2022/11/19(土)～2022/11/20(日)

【11/19】

時間	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
13:30～ 14:30	ゲストスピーカーによる講演	貝澤 徹	木育ひとものがたり	1.0H	北の工房 つとむ
14:30～ 15:00	フィールドワーク	廣岡 絵美	アイヌの生活文化を知る	1.0H	アイヌ文化 博物館
15:00～ 16:30	ワークショップ	貝澤 守	アイヌ文様の 木彫コースター制作	1.5H	二風谷 工芸館
16:30～ 17:30	講話及び体験	柴田 幸宏	アットシ織見学と体験	1.0H	ウレシパ

【11/20】

時間	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 12:00	ガイドウォーク	三木 昇	アイヌの生活に関する木 の紹介と説明	2.0H	標本園
12:30～ 13:30	昼食・休憩				
13:30～ 15:00	2022 木育アワード ～先進事例発表～	西埜 将世 野田 和規 崎川 哲一	各自の取組の発表	2.0H	アイヌ文化 博物館
15:00～ 15:30	木育マッチングタイム	宮本 英樹	課題解決と新たな活動のヒント	0.5H	

## ■現地情報の収集

現地情報の収集は弊社のネットワークのほか、木育ファミリーのネットワークや、平成 22～令和 3 年度の受講生である木育マイスターに協力してもらい、行った。木育マイスター育成研修第 1 回目、2 回目の研修会場である苫小牧市では NPO 法人いぶり自然学校や北海道大学苫小牧研究林にご協力いただき、研修会場や周辺の森の下見、研修内容についての打合せを行った。また、木育マイスターフォローアップ研修の会場においては、平取町、現地関係者、木育マイスター等に協力いただき、研修会場や周辺の森について情報を共有し、研修内容についての打合せを行い、研修内容を決定した。

情報収集の際、現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

## ■受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道と弊社のHPへの掲載、北海道内の木育関係施設への募集チラシの配布を行った。また、「わくわく木育通信」などで木育関係者に対して情報提供を行った。木育マイスター育成研修については、平成 29 年度から、応募の際に「研修の受講目的及び自身の得意分野」についてのレポートの提出を実施しており、令和 4 年度も引き続き実施した。定員 20 名に対して 72 名の応募があったことから、急遽定員を増やし、抽選により 25 名の受講生を決定した。

木育マイスターフォローアップ研修については、定員 20 名に対して 20 名の応募であったため応募者全員を受講生として決定した。

## ●木育マイスター育成研修の実施

### ■第 1 回目 令和4年9月3日-9月4日

◆1 日目 (9/3) 苫小牧市 イコロの森 受講者 25 名

9:30 開会式

10:00 体験学習の理解 (合同会社 machi cen 宮本英樹)

体験を通して概念を理解する「体験学習」の手法を学ぶため、受講生たちが実際に体験学習のアクティビティを体験し、人にもものを伝えるための手法を学んだ。

アイスブレイクを行うことにより、①参加者の不安の解消②規範づくり③コミュニケーションの活発化など、アイスブレイクの目的や重要性について学習した。



11:30 昼食 休憩



### 12:30 木育の理念 (KEM工房 煙山泰子)

木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マスターの目指すものについて学んだ。

日本の森には様々な樹種があり、それらが材になった時の違いを、五感で感じる方法が紹介された。また、木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験することで、受講生は木育のイメージを広げた。

最後に、木のマグネットづくりを行い、針葉樹と広葉樹の違い、加工のしやすさ、しにくさなどを体感した。



### 15:30 木と生きる～人の成長と木の関係～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

子どもの成長には、「個性」「課題」「環境」の3つが重要であることを説明した。年齢ではなく個人の能力や興味にあわせた課題設定を行い、環境を整え、子どもにとって「快」の状態を作ることが、成長の速度や深度に良い影響をもたらすことなどを学んだ。また、木育マスターが持つ役割について説明を行った。



18:15 終了

## ◆2日目 (9/4) 苫小牧市 イコロの森他 受講者数：25名

### 9:00 木とふれあい、木に学ぶ

(合同会社 machi cen 上田 融)

鋸の使い方や木への切込みの入れ方の説明後、倒木の方向などを推測し、実際にイコロの森の白樺の樹をチェーンソーで伐倒する様子を見学した。伐倒の際のリスクマネジメントについて学び、実際に体験することでより理解を深めることができた。伐倒した木を馬搬にて所定の場所まで運び、1本の木が製材され、板となっていく様子を見学した。





## 10:00 木とふれあい、木に学ぶ

(合同会社 machi cen 宮本 英樹)

北大研究林への移動中のバス車内では、「樹種図鑑」を使用し、北海道の樹種の特徴について解説した。研究林では、講師が受講生に質問を出し、説明した北海道の主要な樹木があるかどうかフィールドワークを実施しながら、実際に樹皮や葉に触れ、匂いを嗅いだりそれぞれの特徴の違いを体感し、水辺に生える樹の特性なども学んだ。



## 12:30 移動 昼食 休憩

## 13:45 木と生きる～暮らしと産業～

(株式会社 ヨシダ)

(株)ヨシダさんの取組や現在の木材市場についての説明をいただき、工場へ移動した。工場では、原木の選木から皮剥ぎ、製材されるまで全てオートメーション化され、コンピューターで管理されている、一連の過程について見学をした。大型機械が終始稼働している中でも、最後の点検は人間の目によって行われているなどお話しをいただいた。



(丹治林業株式会社)

1本の木の全てをチップへと加工し、無駄にすることなく使用しているというお話しをいただいた。用途が異なるため、針葉樹と広葉樹では、機械を使い分け、また、廃材になるような端木やバークにおいても細粉しチップとして利用価値を高めているとご説明いただいた。受講生からもたくさんの質問がされていた。



17:00 木と生きる

～森林ボランティア、レクリエーションの今～

(NPO 法人いぶり自然学校 上田 融)

上田氏が和みの森、イコロの森を活用しながらどのように森林サービス業の活性化やボランティアを増やしていったのかを失敗談を交えながらお話しいただいた。

最初は「参加者」として参加していた地域住民も、活動に共感をもってもらう事で「参画者」として加わってもらえるようになった事など、今後のマイスターが活動を行う上で参考となる話題であった。



## ■第2回目 令和4年10月23日-10月24日

◆1日目 (10/23) 苫小牧市 イコロの森他 受講者数：24名

9:30 木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

プログラムを考える際に、その活動の趣旨を伝えるために、流れや伝え方についてアクティビティを実際に体験しながら学習した。アクティビティについては、屋外で枝を集めて長さを競うゲーム、アートの製作、袋の中身当てゲームなどを実施した。

受講者は各アクティビティが何を目的として提供されているのか、全体プログラムの流れはどのように考えられているかなど、プログラムを効果的に伝えるために必要なスキル等について身を以て学習していた。



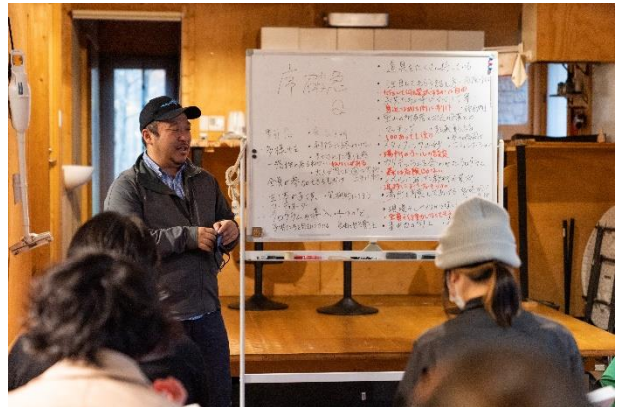
12:00 移動 昼食 休憩



### 13:15 木育プログラムの伝え方

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

受講生が参加した OJT の自己評価シートからキーワードを拾い上げ、全体で体験を共有した。キーワードとして「ゲーム性」「多様性」「参加者に合わせた臨機応変さ」などプログラムを実施する上で重要なことは、参加者を飽きさせず興味を惹きつけ続けること、参加者が主体であることなどを解説した。また、序破急を取り入れたプログラム作りが効果的であると紹介した。



### 14:30 木育プログラムの伝え方

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

トランプを用いてノンバーバルコミュニケーションの難しさを体感するゲームやフラフープを使用したゲームを行い、共通の課題を成功させるには、全体に指示を出すのではなく、個々人に言葉をかけることが大切であることを体感した。ゲームを通じて、参加者同士のコミュニケーションが深まり、その結果、個性を引き出すきっかけ作りになることを学んだ。



### 15:30 木とふれあい、木に学ぶ

(KEM 工房 煙山 泰子、合同会社 machi cen 上田 融)

最初に制作の手順と道具の説明をし、必要な工程を講師が見本を見せたのち、白樺の木を使ってカッティングボードの制作を行った。薄くカットされた1枚の板を、受講生の好みに合わせた部位・長さにカットし、削り馬で形を整え、穴をあけ、紙やすりで磨き、最後にえごま油を塗り、完成させた。時間内に全ての作業(説明⇒制作⇒後片付け)を終えるための時間配分を考慮し、協力し合う様子も伺えた。





◆2日目(10/24) 苫小牧市 イコロの森 受講者数：24名

9:00 木と生きる～暮らしと産業～

(ノンフィクションライター 西川栄明)

木育マイスターとはどのような存在かについて説明があり、マイスターとしての自覚を持つことや企画力の重要性について再認識することができた。

次に木育プログラムの企画立案のヒントとして色々な事例の紹介があった。その後、木材製品の歴史や特徴について理解することを目的に、木の道具、木の文化や習慣などの歴史的背景についてスライドを見ながら講義を受けた。受講者は、昔から樹種の特徴による適材適所を考えながら人と木が共存してきた経緯を学んだ。



11:15 木と生きる～林産業の今～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

大沼流山牧場での活動や森で余暇を楽しむためのコンテンツとしてのテントサウナや森の執事(ネイチャーバトラー)の存在について紹介した。大沼流山牧場の事例として、森の開拓から始まり、切った木を馬搬で運び出し、森や農場を整地し、メイプルシロップの生産や観光農場として展開するまでをスライドを見ながら紹介があった。森林の活用方法として「空間利用」や「里山的利用」など、時勢に合わせた発想と着眼点が必要であることを学んだ。



12:20 昼食 休憩

13:15 木育はつながりのキーワード～プログラムの作り方～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

木育プログラム、企画を組み立てる際に重要な、コンセプト(主旨、ねらい)づくりについて学んだ。自分の思いを形にして伝えるためにはマーケット分析が大事なことや、企画・実施・評価を繰り返し、フィードバックしていくことでよりよいプログラムが



できていくことを学んだ。

これまでの講義で学んだ「体験活動」やプログラム作成に大切な「思い」「コンセプト」などの企画作りのアウトラインを活用して、受講生自身がこれから取り組みたい企画を提案し、そのテーマについてグループワークにより 4 つのプログラムの企画・発表を行った。



最後に各自の「木育宣言」を発表し、全 4 日間の研修のまとめとした。

18:00 終了



## ●OJTの実施

OJTは第1回研修と第2回研修の間に実施することで、その経験を、後半の第2回研修に活かせるようにした。道内全域（道央地域、道北地域、十勝地方、道東地域、道南地域）で計46件のOJTを設定し、そのうち22件のOJTに参加があった。OJT実施にあたっては、受け入れの担当者と調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。

OJT当日は、プログラムの事前準備や打合せ、振り返りまでの参加により、イベントを運営するマネジメント手法や実際のプログラム手法、注意点などを体験的に学んだ。OJT終了後は、研修生に自己評価シートに自分の役割、評価・反省点、感想などを記入してもらうことで、OJTの内容を振り返り、今後の自身の活動に活かせるようにした。

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ人数)
1	9月7日	日月 伸	帯広の森 はぐくむ	幼児親子向けの自然体験 森のお散歩	2名
2	9月10日	上田 融	苫東和みの森	月に一度は森づくり 親子対象森づくり活動	1名